

公立大学法人
横浜市立大学附属
市民総合医療センター

YUMESUMA e-Learning

第5回e-Learning大賞 厚生労働大臣賞(2008)

大学附属病院における全職員を
対象としたe-Learningの有効利用

プロジェクトリーダー 病院長 平安良雄
プロジェクト実務責任者 医療情報部 教授 古川政樹
2010年7月7日

横浜市立大学附属
市民総合医療センターの紹介

- 場所:横浜市の中心
- 病床数:720床(うち高度救命救急センター 36床)
- 9疾患別センター、18専門診療科、21中央部門
- 職員:1300名、(委託等含めると1800名)
- 外来患者:1800人/日
- 新入院患者:15000人/年
- 手術件数:6000件/年
- 分娩件数:1000件/年
- 赤ちゃんに優しい病院(WHO、UNICEF)、地域医療支援病院
- 病院の安心度・総合ランキング3位



- 基本方針
 - 大学病院として救急医療及び高度専門医療を通じて、地域社会(横浜、神奈川)に貢献するとともに、良質な医療人を育成急性期型病院

日本における医療の問題

- 救急患者受け入れ、妊婦受け入れ、医療事故など
- 燃えつき症候群(病院勤務医師)
- 病院経営の悪化
 - 地域医療の崩壊、悪循環へ→2010年診療報酬改訂で……
- 医師の数、地域偏在、診療科偏在、新医師臨床研修制度
 - 2008年6月27日臨時閣議(骨太の方針2008)で大転換、医師数増員など決定
- 医療事故対策
 - 医療安全調査委員会設置法案 2008年見送りのまま(大野事件:無罪)
- 病院経営を維持しながらの医療の質向上、安全管理が、再び強く問われている
- 病院勤務者としての使命を果たすため、病院に勤務する全職員に対する教育・研修環境の整備が必須
- 当院も、2005年の法人化にともない、様々な意味で、一層、厳しい状況にあり、かつ、公的病院としての高いモチベーションを維持しなければならない

なぜ病院にe-Learningが必要か

- とくに大学附属病院の特殊性として
- 管理形態の異なる多分野の専門職種が勤務する
- 人事異動が(異常に)多い(とくに医師)
- 勤務時間が職種、部門により異なる
- 委託、派遣職員、非常勤職員が多く、さらに彼らが重要な業務を担っている
- 多忙である
- 情報周知が徹底されない
 - 安全管理に限らず、膨大な量の伝達情報、学習すべき内容を、より効率的に反復して、確実に習得するための環境、方策を整えることが必須と考えられるが、**集合研修のみでは不可能**
 - ガイドライン、マニュアル、委員会決定事項など、日々、更新、発表される。

これらの問題に対処するため、全職員向けに
e-Learningシステムを2004年9月より導入

(C) 2010 公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター

運用・管理

- **稼働に関するキーワード:トップダウン、組織横断的活動**
- YUMESUMA e-Learning活用推進プロジェクト
 - 病院長(プロジェクトリーダー)、その他病院幹部
- 企画実施担当会議(実働部隊)一毎月開催
 - コアメンバー(+コース作成担当者)
 - 医療情報部、安全管理担当、看護部、中央部門、事務担当
 - 開講企画、受講進捗の確認、院内への周知施策検討、結果報告など
- 育成管理者
 - 所属長、病棟師長、リスクマネージャー、係長、
 - 所属内の進捗管理

■ YUMESUMA: Yokohama City University, Medical Center, Medical e-Learning System founded by Sugiyama and Matsuse.

基本コースの紹介

(1コース4週間前後開講)

- **電子教材付**(15分~20分で1回の受講終了想定)
 - 全職員、全医療職向け、その他
 - 確認テスト、アンケート、病院長メッセージもあり
- **テキストのみ**(5分前後で1回の受講終了想定)
 - 研修医向け、リスクマネージャー向け、その他
 - テスト、アンケート
- ▶ **コースの修了:**
 - 合格点取得で修了テストの繰り返し受験を許し、修了するまで繰り返し一現時点でテストの目的は個人の評価でなく、知識の習得
- **アンケート**
 - 文章を読ませることで知識の確認、業務用アンケート集計に利用
- **常時開講**—既開講コースについて後から確認、中途採用者受講可能
- 集合研修や講習会、訓練などとリンク(救急蘇生、災害対策など)
- 各コースにアンケート(一般、個別)をつけ回答にフィードバック

確認試験

- 合格するまで繰り返し受験することで理解と周知を図る
- 各コースの修了評価/判定に利用
- 問題数 5~10問、教材内容ならびに参考資料(各種マニュアル)から出題
- テスト、選択肢から学ぶ

Q1 災害時の行動に関する文章です。文中の粗み合わせて正しいものを選んでください。

後述各問に「A」以上の情報が提供された場合や東海地震により予想される緊急時対応マニュアルが提示された場合、職員は対応に当たります。個々の安全を十分確保しながら行動してください。同時に、周囲には適切な連絡がとれない、その他の大規模災害などがあります。

① A 5階 B 自動歩機 C 入り方 D 呼び出し音
 ② A 5階 B 呼び出し音 C 入り方 D 自動歩機
 ③ A 5階 B 自動歩機 C 入り方 D 呼び出し音
 ④ A 5階 B 呼び出し音 C 入り方 D 自動歩機


Q2 病院で働くすべての職員として必要な行動はどれでしょうか。適切なものを選んでください。(複数選択可)

① 病室はすべてのエリアで携帯電話のこみ分けを行っています。
 ② 休日に追加稼働で勤務の依頼や依頼があった。上記には対応しなかった。
 ③ ドクターコールの場合は手話通訳電話の要請があるが、FAXをダイヤルしてドクターコール・コールセンターに連絡して対応している。
 ④ 院内緊急通報の稼働はドクターコールと「コードブルー」と「コードレッド」の3種類である。
 ⑤ マンタリタスリットは置きやすいものがある。
 ⑥ エレベーターや廊下、階段などでは患者さんのことには注意しない。
 ⑦ 患児の使用目的は職員自身の身を守るためにすることや患者の機嫌を悪くするために使用するものである。
 ⑧ 入浴室には禁煙表示がある。
 ⑨ 病室はすべてのエリアで携帯電話の使用が禁止されている。

コース、コンテンツ制作の工夫

- 自発的な受講を促すよう……
- 負担が多すぎることのないように内容を調整
 - ポイントを絞り、20分以内には終わるように
- 集合研修や講習会とリンク
 - 例: 救急蘇生講習会受講前にe-Learning受講を義務づけ
 - 入職時オリエンテーション後、e-Learningにより復習
- 院長のビデオメッセージ収録
 - 一病院トップの話を直接聞く機会を与え、職員全員が受講する文化の醸成
- 手順やキーポイントをわかりやすく演出
 - シミュレーションを採用した体験学習
 - 例: KYT(危険予知トレーニング)

第5回日本e-Learning大賞 厚生労働大臣賞受賞(2008.7)



病院機能評価V5.0受審結果(2008.11) 以下HPより

- 1.病院組織の運営と地域における役割
 - 職員の教育・研修は、職員数が多人数の大きな組織なので、集合研修の困難さを解消するためにe-Learningによる研修を行い、大きな成果をあげている。
 - 1.7.1全職員を対象とした教育・研修が行われている: 5
 - 5段階評価の5: 他の模範となるような、極めて適切に行われている
 - 通常は5はつかない。“他の模範となるような”場合にのみ5と評価される。
 - 病院では集合研修による職員の教育・研修は困難
 - e-Learningが機能評価受審に極めて有効

e-Learning実施による成果

- e-Learningの意義を組織として改めて認識
- ほぼ6年、継続して、組織横断的に実施
- コース開講希望が年々増加→良質なコンテンツ
- 受講者の意識は明らかに向上、e-Learning受講文化の定着
- 内容(正答率の低い問題)、部署ごと(修了率)にウイークポイントを客観的数値として把握
- 修了率→高
 - 知識習得、情報伝達に一定の効果があったと判断
- アンケート回答→受講者の積極的姿勢反映
 - 既開講コースの受講希望、インターネット接続の希望、他講習とのリンク希望
 - 重要コースの繰り返し開講希望など
- コースにつけた個別アンケートにより病院の実態を把握、業務改善、職員教育にフィードバック(双方向性を生かし業務改善)
 - 例: 感染管理→就労時手洗いの実施状況
- 対外的発表により他施設等からの見学希望有り

医療界におけるe-Learningの将来性

日本の医療改善に向けた一助として多様な用途

- 導入当初からの予想通り、特殊な環境にある大病院(とくに大学附属病院)における病院運営・経営のための教育・研修ツールとしてe-Learningが必須であることは明白
 - 新人教育、異動者教育、再教育、非正規採用(委託、派遣など)教育
- 医師(医療職)不足対策
 - 休職者支援、復職者支援
- e-Learningのさらなる普及を図り、効果を上げるため
 - 効率的なコンテンツ作成
 - 他施設支援
 - インターネット接続 開始
 - 接続環境改善(事務職)、休職者支援、復職者支援、募集用、地域医療、患者様向け、その他、

普及のための問題点

- 導入経費
- コンテンツ作成→テンプレート化、簡略化
 - 共同研究 e-Learning導入の標準化に関する研究
 - 株式会社システム・テクノロジー・アイ
 - 公立大学法人横浜市立大学
- 管理
 - 他施設との共同作業の可能性について
 - 内容は共有できる部分と個別部分あり
 - マスタ管理、開講手順、受講管理などは共有可能

表1 平成21年度(2009年度) YUMESUMA e-Learning 活用実績

YUMESUMA e-Learning活用推進プロジェクト リーダー 病院長 平安良雄

YUMESUMA e-Learning活用推進プロジェクト 実務責任者 医療情報学 教授 古川政樹

NO.	コース名	受講対象者	主催者	開始日	終了日	種別	対象者	修了者	受講途中	未着手者	修了率
1	心肺蘇生研修～ガイドライン2005～	看護師新卒採用者	看護部	4月14日	5月14日	(C)、A	105	103	2	0	98.1%
2	田中病院長 新年度(2009年度)のご挨拶	全職員	YUMESUMAプロジェクト	5月12日	5月28日	A、V	1866	1512	7	347	81.0%
3	知っておきたい当院の基本(2009年度版)	新規採用者	YUMESUMAプロジェクト	5月12日	5月28日	C、A	379	293	3	83	77.3%
4	リスクマネージャー会議から(0905)	RM・安全管理対策委員	安全管理担当	5月12日	5月28日		94	78	1	15	83.0%
5	安全管理研修(09-I)	研修医	プログラム責任者	5月12日	5月28日	A	78	68	0	10	87.2%
6	①安全コンテンツ総論編(2006)	新規採用者	YUMESUMAプロジェクト	5月12日	5月28日	(C)、A	364	314	6	44	86.3%
7	②医療コミュニケーション～安全コンテンツ 各論Ⅰ～	新規採用者	YUMESUMAプロジェクト	5月12日	9月30日	(C)、A	364	307	0	57	84.3%
8	③患者確認(2007)～安全コンテンツ各論～	新規採用者	YUMESUMAプロジェクト	5月12日	9月30日	(C)、A	364	301	3	60	82.7%
9	④転倒転落対策(予防を中心に) ～安全コンテンツ各論Ⅱ-2～(2009年度版)	新規採用者	YUMESUMAプロジェクト	5月12日	9月30日	(C)、A	364	297	0	67	81.6%
10	⑤問題解決法～安全コンテンツ各論Ⅲ～	新規採用者	YUMESUMAプロジェクト	5月12日	9月30日	(C)、A	364	276	22	66	75.8%
11	⑥医療安全に求められる病院機能～安全コンテンツ各論Ⅳ～	新規採用者	YUMESUMAプロジェクト	5月12日	9月30日	(C)、A	364	285	2	77	78.3%
12	⑦大地震発生時の病院機能と職員の行動 ～災害対策コンテンツⅠ(2008年度版)～	新規採用者	YUMESUMAプロジェクト	5月12日	9月30日	(C)、A	364	286	2	76	78.6%
13	⑧被災者の受け入れ～災害対策コンテンツⅡ～	新規採用者	YUMESUMAプロジェクト	5月12日	9月30日	(C)、A	364	276	4	84	75.8%
14	⑨患者接遇 ～より良い医療コミュニケーションに向けて～	新規採用者	YUMESUMAプロジェクト	5月12日	9月30日	(C)、A	364	280	1	83	76.9%
15	⑩緩和ケアの基礎知識(2009年度版)	新規採用者	YUMESUMAプロジェクト	5月12日	9月30日	(C)、A	364	279	3	82	76.6%
16	⑪個人情報の適正な管理	新規採用者	YUMESUMAプロジェクト	5月12日	9月30日	(C)、A	364	277	3	84	76.1%
17	⑫感染対策の基本と院内ルール (2008年度版)(医療職以外は任意受講)	新規採用者	YUMESUMAプロジェクト	5月12日	9月30日	(C)、A	364	268	3	93	73.6%
18	⑬心肺蘇生研修～ガイドライン2005～ (医療職以外は任意受講)	新規採用者	YUMESUMAプロジェクト	5月12日	9月30日	(C)、A	364	266	0	98	73.1%
19	⑭褥瘡対策～基礎的な知識～ (2009年度版)(医療職以外は任意受講)	新規採用者	YUMESUMAプロジェクト	5月12日	9月30日	(C)、A	364	262	4	98	72.0%
20	診療録記載(2009年度版)	全医療職・医療事務	YUMESUMAプロジェクト	6月4日	6月25日	C、A	1756	1471	36	249	83.8%
21	リスクマネージャー会議から(0906)	RM・安全管理対策委員	安全管理担当	6月4日	6月25日		92	72	0	20	78.3%
22	安全管理研修(09-II)	研修医	プログラム責任者	6月4日	6月25日	A	78	69	0	9	88.5%
23	火災発生時の病院機能と職員の行動 ～災害対策コンテンツⅢ(2009年度版)	全職員	YUMESUMAプロジェクト	7月7日	7月27日	C、A	1850	1526	20	304	82.5%
24	リスクマネージャー会議から(0907)	RM・安全管理対策委員	安全管理担当	7月7日	7月27日		94	72	0	22	76.6%
25	安全管理研修(09-III)	研修医	プログラム責任者	7月7日	7月27日	A	82	67	0	15	81.7%
26	働く人のメンタルヘルス	全職員	YUMESUMAプロジェクト	8月6日	8月26日	C、A	1820	1429	54	337	78.5%
27	リスクマネージャー会議から(0908)	RM・安全管理対策委員	安全管理担当	8月6日	8月26日		95	76	1	18	80.0%
28	安全管理研修(09-IV)	研修医	プログラム責任者	8月6日	8月26日	A	82	61	2	19	74.4%

29	患者接遇 ～より良い医療コミュニケーションに向けて(2009年度版)	全職員	YUMESUMAプロジェクト	9月3日	9月25日	C、A	1811	1408	17	386	77.7%
30	心肺蘇生研修Ver3 ガイドライン2005	全医療職	YUMESUMAプロジェクト	10月6日	10月27日	C、A	1511	1192	28	291	78.9%
31	リスクマネージャー会議から(0910)	RM・安全管理対策委員	安全管理担当	10月6日	10月27日		95	68	1	26	71.6%
32	安全管理研修(09-V)	研修医	プログラム責任者	10月6日	10月27日	A	80	55	2	23	68.8%
33	大地震発生時の病院機能と職員の行動 ～災害対策コンテンツⅠ(2008年度版)～	全職員	YUMESUMAプロジェクト	10月16日	11月27日	C、A	1802	1493	19	290	82.9%
34	被災者の受け入れ～災害対策コンテンツⅡ～	全職員	YUMESUMAプロジェクト	10月16日	11月27日	C、A	1802	1450	16	336	80.5%
35	火災発生時の病院機能と職員の行動 ～災害対策コンテンツⅢ(2009年度版)	全職員	YUMESUMAプロジェクト	10月16日	11月27日	C、A	1802	1438	11	353	79.8%
36	医薬品・医療機器に関する安全管理Ⅱ	全医療職	YUMESUMAプロジェクト	11月5日	11月26日	C、A	1511	1085	44	382	71.8%
37	リスクマネージャー会議から(0911)	RM・安全管理対策委員	安全管理担当	11月5日	11月26日		95	62	0	33	65.3%
38	安全管理研修(09-VI)	研修医	プログラム責任者	11月5日	11月26日	A	80	54	1	25	67.5%
39	緩和ケアの基礎知識 PartⅡ～症例から学ぶ緩和ケアのポイント～	その他	YUMESUMAプロジェクト	12月3日	12月24日	C、A	1306	881	63	362	67.5%
40	リスクマネージャー会議から(0912)	RM・安全管理対策委員	安全管理担当	12月3日	12月24日		95	58	1	36	61.1%
41	安全管理研修(09-VII)	研修医	プログラム責任者	12月3日	12月24日	A	80	56	0	24	70.0%
42	田中病院長からの新年のご挨拶(2010年)	全職員	YUMESUMAプロジェクト	1月1日	1月27日	A、V	1780	1431	3	346	80.4%
43	職員倫理・臨床倫理・研究倫理	全職員	YUMESUMAプロジェクト	1月7日	1月27日	C、A	1780	1367	43	370	76.8%
44	リスクマネージャー会議から(1001)	RM・安全管理対策委員	安全管理担当	1月7日	1月27日		95	65	0	30	68.4%
45	安全管理研修(09-VIII)	研修医	プログラム責任者	1月7日	1月27日	A	82	65	0	17	79.3%
46	感染対策の基本と院内ルール(2009年度版)	全職員	YUMESUMAプロジェクト	2月4日	2月25日	A	1783	1334	51	398	74.8%
47	リスクマネージャー会議から(1002)	RM・安全管理対策委員	安全管理担当	2月4日	2月25日		95	63	1	31	66.3%
48	安全管理研修(09-IX)	研修医	プログラム責任者	2月4日	2月25日	A	82	58	0	24	70.7%
49	看護必要度確認テストとアンケートVer.1.1 (必須受講対象:師長・病棟看護師)	看護部(師長・病棟看護師)	看護部	2月9日	2月26日	A	637	581	20	36	91.2%
50	安全管理総集編(2009年度版)	全職員	YUMESUMAプロジェクト	3月4日	3月24日	A	1780	1277	59	444	71.7%

RM:リスクマネージャー、C:電子教材作成コース、(C):昨年度の電子教材利用コース、A:アンケート貼付、V:冒頭挨拶付き

ご質問・ご連絡先
 横浜市立大学附属 市民総合医療センター 医療情報部、古川政樹
RXW05040@nifty.ne.jp



平成21年度(2009年度)全職員向け(全医療職向け)コース

部門別修了率(上段、%)と受講対象者数(下段、人)

No.	コース名	全体	診療科	中央部門	看護部	管理部	研修医	委託
2	田中病院長 新年度(2009年度)のご挨拶	81.0% 1866	57.3% 288	88.0% 225	82.6% 955	89.5% 86	87.2% 78	91.1% 214
20	診療録記載(2009年度版)	83.8% 1756	61.0% 287	85.8% 225	87.6% 952	対象外	88.5% 78	93.5% 214
23	火災発生時の病院機能と職員の行動 ～災害対策コンテンツⅢ(2009年度版)	82.5% 1850	54.9% 288	85.3% 224	87.3% 935	84.9% 86	81.7% 82	94.8% 210
26	働く人のメンタルヘルス	78.5% 1820	52.6% 289	87.1% 224	82.4% 930	77.9% 86	74.4% 82	90.0% 209
29	患者接遇 ～より良い医療コミュニケーションに向けて (2009年度版)～	77.7% 1811	51.6% 287	80.3% 223	84.2% 925	73.3% 86	69.5% 82	87.5% 208
30	心肺蘇生研修Ver3 ガイドライン2005	79.0% 1511	54.7% 285	83.3% 222	86.5% 924	実施せず	65.0% 80	実施せず
33	大地震発生時の病院機能と職員の行動< ～災害対策コンテンツⅠ(2008年度版)～	82.9% 1802	55.8% 285	87.0% 223	90.8% 923	76.7% 86	73.8% 80	86.3% 205
34	被災者の受け入れ ～災害対策コンテンツⅡ～	80.5% 1802	53.3% 285	87.0% 223	88.4% 923	72.1% 86	71.3% 80	82.4% 205
35	火災発生時の病院機能と職員の行動 ～災害対策コンテンツⅢ(2009年度版)	79.8% 1802	52.6% 285	86.5% 223	87.4% 923	72.1% 86	71.3% 80	82.4% 205
36	医薬品・医療機器に関する安全管理Ⅱ	71.8% 1511	47.7% 285	82.5% 223	77.1% 923	実施せず	66.3% 80	実施せず
39	緩和ケアの基礎知識 PartⅡ ～症例から学ぶ緩和ケアのポイント～	67.5% 1306	41.8% 275	70.4% 71	75.3% 879	100.0% 1	66.3% 80	実施せず
42	田中病院長からの新年のご挨拶(2010年)	80.4% 1780	52.7% 283	84.7% 222	85.5% 912	80.2% 86	78.0% 82	92.8% 195
43	職員倫理・臨床倫理・研究倫理	76.8% 1780	49.5% 283	83.8% 222	79.8% 912	79.1% 86	78.0% 82	92.8% 195
46	感染対策の基本と院内ルール (2009年度版)	74.8% 1783	40.3% 283	79.7% 222	81.4% 910	76.9% 91	68.3% 82	90.3% 195
50	安全管理総集編(2009年度版)	71.7% 1780	40.6% 283	80.2% 222	78.0% 905	78.3% 92	54.9% 82	82.1% 196